

第60回BCP維持管理研究会 議事録

1. 日 時 : 2015年12月17日(木)16:00-18:30
2. 場 所 : 損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
3. 出席者 (敬称略) 11名
小田、國貞、澤田、清水、守護、菅谷、高桑、高橋、柳谷、種子、中谷(書記)
4. 内 容

(1)訓練実施の結果

①大地震初動演習(くじ引き型)・・・10月28日実施

従来型の訓練(対策本部員中心・事前に入念な準備が必要)に比べ、より気軽に誰でも参加できる訓練の実施を試行した。

(発災直後)(発災後1~2時間)(発災後24時間)の3段階に分けて実施した。

各グループが被災インシデントを箱内から取り出し、そのインシデントに対して個々の行動・対応を検討し、緊急時にやるべきことを習得することを目的とした。

<反省>

- ・被災インシデントを「くじ引き」としたので、にかよったインシデントが特定グループに集中した。
選択の方法(箱や色分けなど)を検討する必要がある。
- ・主体的に活動(検討)ができたので、大変興味を持たせる訓練ができると感じた。
- ・各グループに詳しい方がいてリードしてくれたのが、大変良かった。

②火山噴火に対応する演習・・・11月19日実施

噴火予兆から降灰までの事前準備、及び降灰時の事業継続対応について、シナリオに基づきグループディスカッションを行った。(噴火予兆)(噴火)(降灰:工場、及び本社)の3段階に分けて、事業継続の観点から演習を行った。

<反省>

- ・5パターンのシナリオを作成していたが、実際には4つしか出来なかった。ファシリテータとして時間管理の重要性を再認識した。
- ・地震中心の訓練が覆い中で、火山噴火に対する知識・考え方が新鮮で大変良かった。
- ・大地震は発災後の対応中心であるが、火山噴火は気象状況により大きく変化するので、被害想定や被害範囲のイメージが難しかった。
- ・大変シナリオが新鮮であり、事業継続の視点から多くの対策案が検討できて大変良かった。

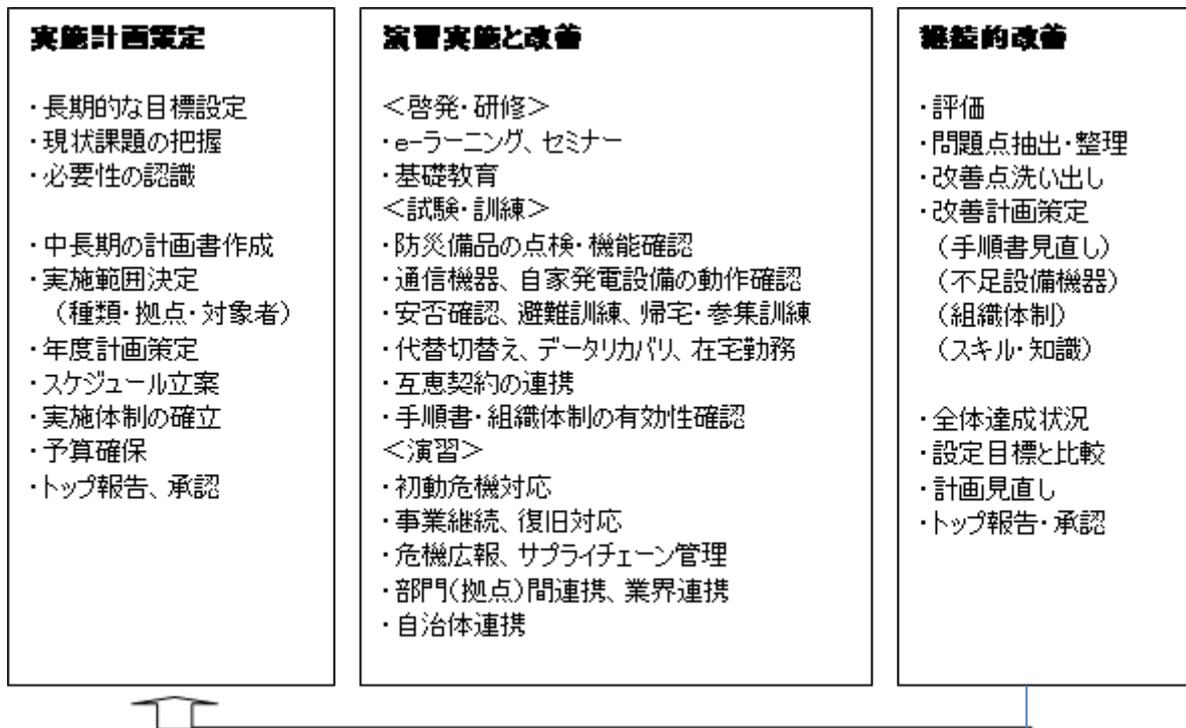
(2)ISO22398 演習指針の考え方

現在、殆どの会社(組織)が演習プログラムと演習プロジェクトを混同しており、体系的な訓練・演習ができていない。

本指針を参考にして、組織的・体系的な訓練計画を長期に渡って計画する必要がある。

付け焼刃的な訓練演習では、組織能力の訓練は向上しない。

(参考)危機管理能力向上のためのプロセス



5. 次回開催

2016年 1月21日 場所検討中
演習の考え方、評価方法について

以上